

## 国連防災世界会議においてタイ外務省主催のパブリック・フォーラムを開催しました (2015/3/15)

テーマ：2004年インド洋津波、防災まちづくり  
場所：川内北キャンパスB棟 101 教室

3月15日(日)、タイ外務省主催のパブリック・フォーラム「MORE (Resilience) for LESS (Risk) : DRR Matters・上級パネルディスカッション」が開催されました。このセッションには、タイ総務省大臣 H.E. Gen. Anupong Paochinda 氏、タイ保健省大臣 Prof. Dr. Ratchata Ratchatanavin 氏が参加され、国連国際防災戦略事務局長 Margareta Walstrom 氏より基調スピーチがありました。本セッションは、地域を単位とする防災の取り組みや社会一丸となった防災アプローチなど、タイの成功事例やモデルを共有し、また政府代表者や国連、国際機関、民間団体、市民社会、学者、地域といった関係者の間での意見交換を目的として開催されました。イベントにおいて、“10 years on: Remembering the Indian Ocean Tsunami” の本が発表されました。災害科学国際研究所からは災害医学研究部門の服部 俊夫 教授、江川 新一 教授、寄附研究部門のサッパシー アナワット 准教授、災害リスク研究部門の保田 真理 助手が参加しました。タイ保健省大臣と2011年東日本大震災からの経験を踏まえた東南アジアでの災害後の感染症、災害派遣医療チーム(DMAT)、他の初期災害対応について意見交換をしました。



パネルディスカッションの登壇者



タイ保健省大臣と当研究所教員との記念撮影

文責：サッパシー・アナワット（寄附研究部門）